

防災訓練

知識と行動で自分の命を守る

いつ発生するか分からない災害に備えるため、昨年11月17日、総社東小学校と岡山県立大学を会場に防災訓練を実施しました。

訓練は、南海トラフ巨大地震に起因する震度6弱の地震が発生し、三須地区では総社東小を、服部地区では県立大学の体育館を避難所として開設した想定。総社東小では住民や市職員、警察など約300人が参加し、初期消火訓練や救命救急訓練、土のう積み訓練、ダンボールベッド組立訓練など子どもから大人まで参加できる体験型の訓練が行われました。県立大には実際に、長良と窪木地区の住民が避難。避難所の設営やアムダスタッフによる救命活動など、約100人が実践的な訓練を体験しました。

また、自衛隊や消防署、消防団による訓練、市社会福祉協議会と市赤十字奉仕団、市ボランティア連絡協議会によるご飯と豚汁の炊き出しも実施されました。

今回の訓練は、昨年9月に締結したNPO法人アムダと県立大学と総社市の災害支援などの3者連携協定に基づき実施されました。



土のう積み訓練



ダンボールベッド組立訓練

外国人防災リーダー養成研修

いざというときの地域の要に

災害時に地域の外国人住民への情報提供や避難誘導などを行う外国人リーダーを養成する研修会が、昨年11月9日と10日の両日、市役所や公設国際貢献大学校（新見市）などを会場に開催されました。

市内外在住の外国人14人が一泊二日の実践型のカリキュラムを受講。参加者は、非常食の作成や救命講習、避難所での物資仕分け作業など、災害時の対処法を学びました。

行政が外国人コミュニティやIOM（国際移住機関）などと連携し外国人の防災リーダーを育成するのは、全国で初の試みです。



非常食を作成する参加者



受賞した大月亮団長

「多くの皆様のご理解とご協力のおかげです。これからも市民の安全・安心のために努めていきたい」と話しました。

大月亮団長は昭和36年1月旧昭和町の消防団に入団。以後、日美分団長や市消防団副団長などを歴任し、平成13年4月から団長を務めています。大月亮団長は、「多くの皆様のご理解とご協力のおかげです。これからも市民の安全・安心のために努めていきたい」と話しました。

大月亮消防団長 内閣総理大臣表彰受賞

総社市消防団の大月亮団長（日羽）が、長年消防団活動に従事し、消防行政の発展に大きな貢献をしたとして、昨年11月25日、内閣総理大臣表彰を受賞しました。総社市では初の受賞となります。

他人事ではすまない

災害支援・防災対策



パナイ島での医療診療活動。高潮の体験による精神的不安を訴える人が多かった【写真上】。通訳をする古城さん【写真下】

アムダ・総社市合同ミッション

フィリピン台風被災者への緊急支援

市は、猛烈な台風30号により、深刻な被害が出ているフィリピンで緊急支援活動を行うため、昨年11月18日から25日までの間、市職員1人を派遣しました。

派遣は、昨年9月にNPO法人アムダと県立大学と総社市の3者で締結した「世界の命を救う」連携協力に関する協定書に基づき、市とアムダの合同ミッションとして決定。現地調査や支援物資の調達、通訳として、市教育委員会の英語教育サポーター（市臨時職員）でフィリピン出身の古城デイジーさんが現地に入りました。

古城さんは、マニラからパナイ島とセブ島に入り、既に被災地での支援活動にあっていたアムダ医療支援チームと合流。被災者からニーズ調査をした物資の調達や配布をしたり、現地医師の診療をサポートしたりしました。帰国後、「悲惨な状況を目の当たりにし言葉を失いました。明るく見えても不安で眠れないと訴える子どもが多く、継続した心のケアが必要です」と報告しました。このたびの協定に基づく国際的な支援活動で、官民連携して行う支援と実行する仕組みの必要性を再確認しました。



パナイ島での支援物資の配布活動【写真右】。現地調達した支援物資の中では特に建築資材のくぎや釘金が喜ばれた【写真上】



古城デイジーさん

「うれしいと言ってもらえて自分もうれしかった。みんなは一人じゃない、前向きに生きてほしいの思いを伝えました」と話した